

# Sun Java System Web Proxy Server 4.0.13 リリースノート



Part No: 821-1521  
2009年9月

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。特に、限定されることなく、これら知的所有権には、ひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国における申請中の特許が含まれていません。

U.S. Government Rights – Commercial software. 政府内ユーザは、Sun Microsystems, Inc. の標準ライセンス契約、および該当する FAR の条項とその補足条項の対象となります。

本製品には、サードパーティーが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は Berkeley BSD システムより派生したもので、カリフォルニア大学よりライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、docs.sun.com、Java、および Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社またはその子会社の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPEN LOOK および Sun<sup>TM</sup> Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

この製品と本書に記載されている情報は、米国の輸出規制に関する法規の適用および管理下にあり、また、米国以外の国の輸出および輸入規制に関する法規の制限を受ける場合があります。核、ミサイル、生物化学兵器もしくは原子力船に関連した使用またはかかる使用者への提供は、直接的にも間接的にも、禁止されています。このソフトウェアを、米国の輸出禁止国へ輸出または再輸出すること、および米国輸出制限対象リスト(輸出が禁止されている個人リスト、特別に指定された国籍者リストなどを含む)に指定された、法人、または団体に輸出または再輸出することは一切禁止されています。

本書は「現状のまま」をベースに提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されなない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われなないものとします。

# 目次

---

<b>Sun Java System Web Proxy Server</b> のリリースノート .....	5
このリリースでの新機能 .....	5
Sun Java System Web Proxy Server リリースの拡張機能 .....	6
『Performance Tuning, Sizing, and Scaling Guide』 .....	6
透過プロキシ .....	7
URL マッピング .....	7
Sun Connection への登録 .....	8
サーバーの監視 .....	8
組み込み DNS の解決 .....	9
ACL キャッシュの調整 .....	9
magnus.conf ファイルの新しいディレクティブ .....	10
キャッシュの PURGE 機能 .....	12
IPv6 (Internet Protocol Version 6) のサポート .....	12
NSS 3.12.5 および NSPR 4.8.2 のサポート .....	12
変更された FTP 転送モード .....	13
アップグレードのサポート .....	13
プラットフォームの概要 .....	13
プラットフォーム要件 .....	13
サポートするブラウザ .....	14
ハードウェアとソフトウェアの要件 .....	15
必要なパッチ .....	15
Solaris のパッチ .....	15
Linux のパッチ .....	15
HP-UX のパッチ .....	16
2007 年の US DST の変更の影響 .....	17
マニュアルへのアクセス .....	17
障害を持つユーザー向けのアクセシビリティ機能 .....	17
修正済みの問題 .....	18

---

4.0.13 で修正された問題 .....	18
4.0.12 で修正された問題 .....	19
4.0.11 で修正された問題 .....	20
4.0.10 で修正された問題 .....	22
4.0.9 で修正された問題 .....	23
4.0.8 で修正された問題 .....	25
4.0.7 で修正された問題 .....	25
4.0.6 で修正された問題 .....	27
4.0.5 で修正された問題 .....	30
4.0.4 で修正された問題 .....	32
4.0.3 で修正された問題 .....	38
4.0.2 で修正された問題 .....	42
4.0.1 で修正された問題 .....	43
既知の問題点 .....	45
管理 .....	45
キャッシュ .....	46
インストール .....	47
国際化 .....	48
各国語化 .....	49
SOCKS .....	49
問題の報告とフィードバックの方法 .....	50
このマニュアルに関するコメント .....	50
その他の情報 .....	50
Sun 製品資料の検索 .....	51

# Sun Java System Web Proxy Server のリリースノート

---

このリリースノートには、Sun Java™ System Web Proxy Server 4.0.13 製品 (以後「Proxy Server 4.0.13」または単に「プロキシサーバー」) がリリースされた時点で利用できる重要な情報が含まれています。ここでは、プラットフォームの概要と既知の問題について説明します。Sun 製品を使い始める前に、このドキュメントおよび関連ドキュメントをお読みください。

このリリースノートには、次の内容が含まれています。

- 5 ページの「このリリースでの新機能」
- 6 ページの「Sun Java System Web Proxy Server リリースの拡張機能」
- 13 ページの「プラットフォームの概要」
- 15 ページの「ハードウェアとソフトウェアの要件」
- 15 ページの「必要なパッチ」
- 17 ページの「2007 年の US DST の変更の影響」
- 17 ページの「マニュアルへのアクセス」
- 18 ページの「修正済みの問題」
- 45 ページの「既知の問題点」
- 50 ページの「問題の報告とフィードバックの方法」
- 51 ページの「Sun 製品資料の検索」

## このリリースでの新機能

Sun Java System Web Proxy Server 4.0.13 は Microsoft Windows 2008 Enterprise Edition をサポートします。このリリースでは、セキュリティの脆弱性に関連したバグを含む重要なバグが修正されています。

Bug 6917212 では、Sun Java System Web Proxy Server のダイジェスト認証方法で起きるバッファオーバーフローの問題について説明します。この問題により、権限のないリモートユーザーが Web Proxy Server をクラッシュさせ、サービス拒否 (DoS) の状況を作り出すことができる可能性があります。これらの問題が原因となって、昇格した特権で任意のコードが実行されてしまう可能性もあります。

Bug 6917211 では、Sun Java System Web Proxy Server の HTTP TRACE 機能で起きるヒープオーバーフローの問題について説明します。この問題により、権限のないリモートユーザーが Web Proxy Server をクラッシュさせ、サービス拒否 (DoS) の状況を作り出すことができる可能性があります。これらの問題が悪用され、機密情報への無許可アクセスを許してしまう可能性もあります。

Bug 6897536 では、Sun Java System Web Proxy Server によって送出される「Proxy-support: Session-Based-Authentication」ヘッダーについて説明します。クライアントからサーバーへの認証の整合性を正確に尊重するプロキシは、プロキシからの HTTP 応答内で「Proxy-support: Session-Based-Authentication」HTTP ヘッダーをクライアントに供給します。プロキシがサーバーからの「401 Unauthorized」応答とともにこのヘッダーを供給する場合を除き、クライアントにおいてプロキシ経由で SPNEGO HTTP 認証機構を利用してはいけません。

Bug 6901079 では、プロキシの HTTP クライアントの新しい機能について説明します。この機能は、バックエンドサーバーから受信した任意のエラー応答に対して、Error ステージを必要に応じて実行できるというものです。

Bug 6862976 では、「マップ」SAF 下の新しいパラメータ「trailing-slash-redirect」について説明します。このパラメータを「true」に設定した場合、「マップ」SAF は「to」パラメータの値を新しい URI として使用し、「from」パラメータの値を URI に付加しません。

Bug 6906258 では、新しく追加された LDAP 検索フィルタのサポートについて説明します。

## Sun Java System Web Proxy Server リリースの拡張機能

Proxy Server の最近のリリースに含まれている拡張機能を、次に示します。:

### 『Performance Tuning, Sizing, and Scaling Guide』

パフォーマンスチューニング、サイジング、およびスケーリングに関するガイドが 4.0.11 で導入されました。このマニュアルには、チューニング、サイジング、およびスケーリングに関するヒントや推奨案、パフォーマンスに関する一般的な問題に対する解決策、およびスケーラビリティ研究のデータが含まれています。また、その他の構成およびプラットフォーム固有の問題についても説明します。詳細については、『[Sun Java System Web Proxy Server 4.0.13 Performance Tuning, Sizing, and Scaling Guide](#)』を参照してください

## 透過プロキシ

Proxy Server 4.0 は、HTTP/1.1 接続の透過プロキシをサポートします。透過プロキシでは、クライアントの情報を取得したりクライアントを管理したりすることなしに、プロキシサーバーを使って Web 要求をインターセプトして処理します。たとえば、プロキシサーバーがアクティブになっているローカルポートに受信された TCP 接続をリダイレクトするように、ローカルネットワーク用のルーターを設定したりします。

obj.conf ファイルに含まれるプロキシサーバーの default オブジェクトに、次の指令を追加します。

```
NameTrans fn="host-map"
```

この設定を行うと、プロキシサーバーは、受信した要求の HTTP Host: ヘッダーを使って、ターゲットリモートサーバーの識別とそのサーバーへの要求のリダイレクトを行います。

---

注 - HTTP Host: ヘッダーに基づいて接続を判断する透過プロキシサーバーは、アクティブなコンテンツを通じて偽造された擬似的な HTTP Host: ヘッダーによる攻撃を受けやすくなります。したがって、悪意のあるコンテンツをホストしている可能性のある Web サイトへの接続を回避できるように、適切な ACL 設定を実装する必要があります。

---

## URL マッピング

URL マッピングが Proxy Server 4.0.8 で実装されており、これによって Proxy Server を逆プロキシとして動作させることができます。この機能によって、Proxy Server はバックエンドアプリケーションサーバー用の 1 つのフロントエンドホスト名として表示されます。要求元の URI に基づいて、バックエンドサーバーにアクセスできます。

URL マッピングの詳細については、『[Sun Java System Web Proxy Server 4.0.13 Configuration File Reference](#)』の「[Reverse Proxy Scenario](#)」を参照してください。

URL マッピングで使用されるサーバーアプリケーション機能 (SAF) については、『[Sun Java System Web Proxy Server 4.0.13 Configuration File Reference](#)』の「[Server Application Functions \(SAFs\)](#)」を参照してください。

## Sun Connection への登録

管理サーバーを使用して Web Proxy Server を Sun Connection に登録できます。「**REGISTER WITH SUN CONNECTION**」ボタンをクリックすると、client.jnlp アプリケーションが開きます。ウィザードに従って登録を完了してください。

Web Proxy Server を Sun Connection に登録することで、次のような利点が得られません。

- パッチ情報とバグ更新
- ニュースとイベント
- サポートとトレーニングの提供

この機能は Solaris SPARC、x86 および Linux プラットフォームでのみサポートされています。Solaris 上でこの機能を利用する場合は、SPARC と x86 システムに SUNWservicetagr および SUNWservicetagu パッケージをインストールする必要があります。

Linux 上でこの機能を利用する場合は、sun-servicetag-1.0.0-1.0.i386.rpm をインストールするようにしてください。

## サーバーの監視

Sun Java System Web Proxy Server の監視機能では、インスタンスレベルで監視可能なサーバーパラメータの詳細なリストが提供されます。

Web Proxy Administration Server では、次の操作を実行できます。

- インスタンスレベルでのサーバー統計情報の表示。
- インスタンスレベルでの有効化/無効化。

### ▼ サーバーの監視

- 1 管理サーバーへアクセスします。
- 2 「**Manage Servers**」ページで「**Instance**」リンクをクリックします。
- 3 「**Server Status**」タブをクリックします。
- 4 「**Monitor Current Activity**」タブをクリックします。
- 5 サーバーの監視を行うには、「**Monitor Current Activity**」を **Yes** に設定します。  
5 秒、10 秒、15 秒の間隔でサーバーを更新して、DNS、Keep-Alive、Cache、Server Requests、および Work Thread 接続の統計情報を表示することもできます。

## 組み込み DNS の解決

組み込み DNS では、デフォルト以外の名前解決をサポートしています。DNS クライアントが DNS サーバーと対話して名前解決を行います。新しい SAF `dns-lookup` では、DNS サーバーの IP アドレスをサーバーの引数として受信します。この IP アドレスは `obj.conf` ファイルに DNS ディレクティブとして追加するようにしてください。

次の例では、サーバーパラメータ内で DNS サーバーの IP が指定されています。

```
<object>
...
DNS fn="dns-lookup" server="170.168.10.3"
...
</object>
```

次の例では、複数の DNS サーバーの IP を `dns-lookup-init` に追加できます。これはラウンドロビンモデルで使用されます。このシナリオでは、DNS サーバーの IP を `dns-lookup` には追加しないでください。DNS サーバーのパラメータが `dns-lookup` と `dns-lookup-init` の両方に追加された場合は、`dns-lookup` の引数が優先されます。

```
...
<Object>
...
DNS fn="dns-lookup"
...
Init fn="dns-lookup-init" servers="170.168.10.3, 170.158.10.4"
</Object>
```

## ACL キャッシュの調整

`ACLCacheMax` は、ACL キャッシュ内に保存される ACL の総数の制限を設定する `magnus.conf` パラメータです。`ACLCacheMax` にはデフォルト値が存在しません。特定の制限値を設定するようにしてください。

たとえば、`ACLCacheMax 16384` のように設定します。

---

注 - ここで説明している ACL キャッシュは ACL ユーザーキャッシュのことではありません。パフォーマンス上の理由でキャッシュされる特定の URL に ACL が対応している場合のキャッシュを指しています。

---

`GCAtStartup` は `magnus.conf` パラメータで、ブール値を使用できます。デフォルト値は `false` です。`true` に設定した場合、サーバーの起動時にキャッシュがページコレクションがページをクリアします。キャッシュのサイズが大きい場合は、この処理によってサーバーの起動時間が長くなります。

## magnus.conf ファイルの新しいディレクティブ

この節では、magnus.conf ファイルに新しく追加されたパラメータを一覧表示します。

表1 magnus.conf ディレクティブ

パラメータ	有効な値	説明
ACLCacheMax	1	ACL キャッシュの設定可能な制限を指定します。この指令により ACL キャッシュのサイズが制限されるため、キャッシュ内に存在していればメモリーの使用率に大きく貢献するはずの古いエントリが、キャッシュから削除されます。
FtpPoolSize	1 – 65536	FTP 接続プールのサイズを指定します。デフォルト値は 256 です。
FtpPoolLife	1 – 65536	接続の寿命を秒単位で指定します。これは、監視スレッドによって閉じられるまでに FTP 接続がプール内で未使用の状態を保持している時間です。デフォルト値は 3600 です。
FtpPoolMonitorThread	OFF	FTP スレッドの機能の監視に関するプール値を指定します。デフォルトは ON です。
FtpPoolMonitorLevel	0	整数値を指定します。0 に設定すると、プール監視スレッドが接続の有効/死んでいるをチェックします。  1 に設定すると、接続に対して NOOP コマンドが送信され、応答を待機します。応答の取得に失敗すると、プールから接続が削除されます。デフォルトレベルは 1 です。
FtpPoolMonitorInterval	30 – 65536	プールの接続の監視間隔を秒単位で表す整数値を指定します。デフォルト値は 30 です。
LDAPPoolMonitorThread	プール型の値を取ります。	TRUE に設定すると、ldap 接続プールを一定の間隔で監視する ldap プール監視スレッドが作成されます。デフォルト値は FALSE です。

表1 magnus.conf ディレクティブ (続き)

パラメータ	有効な値	説明
LDAPPoolMonitorInterval	整数の引数を取ります。	ldap プール監視スレッドが ldap 接続プールを検査する間隔を指定します。デフォルト値は 30 です。
LDAPPoolRevalidate	ブール型の値を取ります。	TRUE に設定すると、接続プールから取得されたすべての接続は、呼び出し元に渡される前に「再検証」されます。デフォルト値は FALSE です。
PairedConnections	ブール型の値を取ります。	TRUE に設定すると、サーバーチャンネルが特定のクライアント接続専用になる(ペア化される)「接続ペアリング」が有効になります。デフォルト値は FALSE です。
BufferedLogEnabled	ブール型の値を取ります。	true に設定すると、ある期間中に複数回にわたって生成されたエラーはエラーログに一度だけ書き込まれ、指定された期間中に特定のエラーが実際に生成された回数についての情報が付加されます。デフォルト値は FALSE です。
BufferedLogCountMax	1 – 65536	エラーがエラーログにフラッシュされるまでにエラーを生成できる最大回数を指定します。デフォルト値は 128 です。
BufferedLogSizeMax	1 – 65536	ログメッセージがエラーログにフラッシュされるまでにログバッファに格納できるエラーメッセージの最大数を指定します。デフォルト値は 8192 です。
BufferedLogAgeMax	1 – 3600	ログメッセージが古くなったと判断されてエラーログにフラッシュされるまでに、ログメッセージをログバッファに置くことができる最大期間を秒単位で指定します。デフォルト値は 300 です。
BufferedLogFlushInterval	1 – 300	ログメッセージをエラーログにフラッシュする処理を担当するスレッドがログバッファを検査する間隔を秒単位で指定します。デフォルト値は 30 です。

## キャッシュの PURGE 機能

Proxy Server では PURGE 要求によって、キャッシュされた URL をクリアすることができます。要求された URL が正常に削除されると、サーバーから HTTP ステータスコード 200 (OK) を含む応答が送信されます。指定した URL がキャッシュされていない場合は、404 (Not Found) の応答が送信されます。

次の例では、サーバーは値 200 を返信しています。

```
bash-2.03$ telnet localhost 8088
Trying 172.9.10.1...
Connected to localhost.
Escape character is '^'.
PURGE http://foo.com/ HTTP/1.0

HTTP/1.1 200 OK
Server: Sun-Java-System-Web-Proxy-Server/4.0
Date: Fri, 26 Oct 2007 08:15:30 GMT
Connection: close
```

次の例では、サーバーは値 404 を返信しています。

```
Connection closed by foreign host.
bash-2.03$ telnet localhost 8088
Trying 172.9.10.1...
Connected to localhost.
Escape character is '^'.
PURGE http://foo.com/ HTTP/1.0

HTTP/1.1 404 Not Found
Server: Sun-Java-System-Web-Proxy-Server/4.0
Date: Mon, 17 Sep 2007 10:13:28 GMT
Content-length: 96
Content-type: text/html
Connection: close
```

## IPv6 (Internet Protocol Version 6) のサポート

Proxy Server 4.0.11 を経由して IPv6 対応の Web サイトに接続できます。Proxy Server は、デフォルト (受動) モードで IPv6 の ftp 拡張もサポートします。

## NSS 3.12.5 および NSPR 4.8.2 のサポート

Proxy Server 4.0.13 は、NSS (Network Security Services) 3.12.5 および NSPR (Netscape Portable Runtime) 4.8.2 をサポートしています。

## 変更された FTP 転送モード

Proxy Server 4.0.6 リリースから、拡張アドレス受動ポート (EPSV) モードがサポートされるようになりました。

## アップグレードのサポート

Proxy Server 4.0.2 リリースからアップグレードの場合、インストーラは、既存の Proxy Server 4.0 インストールから新しいバージョンへのアップグレードをサポートしています。Java Enterprise System の Proxy Server 4.0.1 をインストールしている場合は、新しいリリースに対応するパッチをインストールする必要があります。

## プラットフォームの概要

この節では、Proxy Server 4.0.11 でサポートされるプラットフォームコンポーネントに関する情報を示します。

この節では、次の内容について説明します。

- [13 ページの「プラットフォーム要件」](#)
- [14 ページの「サポートするブラウザ」](#)

## プラットフォーム要件

次の表は、Proxy Server 4.0.13 プラットフォームの要件についてまとめたものです。

表2 Proxy Server 4.0.13 のプラットフォーム要件

オペレーティングシステム	最小メモリ	推奨メモリ	推奨するディスク容量*
Sun Solaris™ 8 for SPARC®	256M バイト	512M バイト以上	512M バイト以上
Sun Solaris 9 for SPARC	256M バイト	512M バイト以上	512M バイト以上
Sun Solaris 10 for SPARC	256M バイト	512M バイト以上	512M バイト以上
Sun Solaris 9 for x86	256M バイト	512M バイト以上	512M バイト以上
Sun Solaris 10 for AMD Opteron™	256M バイト	512M バイト以上	512M バイト以上
Red Hat Enterprise Linux Advanced Server 3 Update 4	256M バイト	512M バイト以上	512M バイト以上

表2 Proxy Server 4.0.13 のプラットフォーム要件 (続き)

Red Hat Enterprise Linux Advanced Server 4 Update 2	256M バイト	512M バイト以上	512M バイト以上
Red Hat Enterprise Linux Server Release 5	256M バイト	512M バイト以上	512M バイト以上
Microsoft Windows 2000 Server Service Pack 4	256M バイト	512M バイト以上	512M バイト以上
Microsoft Windows 2000 Advanced Server	256M バイト	512M バイト以上	512M バイト以上
Microsoft Windows 2003 Enterprise Edition	256M バイト	512M バイト以上	512M バイト以上
Microsoft Windows 2003 Server R2 Enterprise Edition SP2	256M バイト	512M バイト以上	512M バイト以上
Microsoft Windows 2008 Enterprise Edition	256M バイト	512M バイト以上	512M バイト以上
HP-UX 11i (11.11)	256M バイト	512M バイト以上	512M バイト以上

\* キャッシュ容量の設定によって決まります。デフォルトのキャッシュ容量設定は 2G バイトです。

サポートされるオペレーティングシステムに Web Proxy Servers を移動または移行するために必要な措置を講じてください。

## サポートするブラウザ

次の表は、Proxy Server 4.0.13 でサポートされるブラウザを一覧したものです。

ブラウザで Java を有効にする必要があります。

表3 Proxy Server 4.0.13 でサポートされるブラウザ

ブラウザ	バージョン
Microsoft Internet Explorer	6.0, 7.0
Netscape Navigator™	7.1, 7.2
Mozilla™	1.4.1, 1.7.2

## ハードウェアとソフトウェアの要件

13 ページの「プラットフォーム要件」に一覧した UNIX オペレーティングシステムのメモリーおよびディスク容量の要件に加えて、システムには適切なスワップ容量も必要です。

- Solaris では、少なくともシステムの RAM 容量と同じスワップ容量が必要です (RAM 容量の 2 倍を推奨)
- Linux では、256M バイトのスワップ容量が必要です。

## 必要なパッチ

適用可能な最新のパッチを使用して、オペレーティングシステムをアップデートすることをお勧めします。必要なパッチをプラットフォーム別に示します。

### Solaris のパッチ

Solaris SPARC および x86 では、Proxy Server 4.0.13 に次のパッチレベルが必要です。

#### Solaris 8 (SPARC)

- 108434-18 (C++ 用の共用ライブラリパッチ)

#### Solaris 9 (SPARC)

- 111711-12 (C++ 用の共用ライブラリパッチ)

#### Solaris 9 (x86)

- 111713-12 (C++ 用の共用ライブラリパッチ)

#### Solaris 10 SPARC

不要

#### Solaris 10 (x86)

- 119964-03 (C++ 用の共用ライブラリパッチ)
- 108434-18 (C++ 用の共用ライブラリパッチ)

### Linux のパッチ

Linux では、Proxy Server 4.0.13 に次のパッチレベルが必要です。

## Red Hat Enterprise Linux Advanced Server 3

- compat-libstdc++-7.3-2.96.128.rpm

## Red Hat Enterprise Linux Advanced Server 4

- compat-libstdc++-33-3.2.3-47.3.rpm compat-libstdc++-296-2.96-132.7.2.rpm

## HP-UX のパッチ

- B.11.11.0412-HP-UX 11i オペレーティング環境コンポーネント
- 11i に付属する必要なパッチ (2003 年 6 月) – B.11.11.0306.1
- B.11.11.0612.459-HP-UX 11i 用 Gold Base パッチ (2006 年 12 月)
- B.11.11.0612.459-HP-UX 11i 用 Gold Application パッチ (2006 年 12 月)
- PHCO\_29109-Pthread の拡張および修正
- PHCO\_27633-Pthread.h の修正および新しい拡張
- PHCO\_29328-libc man ページ累積パッチ
- PHCO\_29495-libc 累積パッチ
- JAVA\_OOB, 1.0.00.02-Java Out-of-Box

Java Out-of-Box ツールは、必要なカーネル調整可能パラメータを構成するのに使用されます。カーネルの値を変更する場合には、このツールを使用することをお勧めします。必要に応じて、次に示す調整可能パラメータが右側の値以上になるように変更してください。

- nkthreads— 3635
- maxfiles—60
- maxfiles\_lim—1024
- max\_thread\_proc—512
- maxswapchunks—2048
- nfile4—136
- ncallout—3651
- nproc—2068



注意-カーネル調整可能パラメータの変更は、システムに悪影響を及ぼす可能性があります。変更内容を完全に理解していない場合は変更しないでください。

---

## 2007年のUS DSTの変更の影響

米国では、3月の第2日曜日にサマータイム(DST)が始まり、11月の第1日曜日に終了します。これは、オペレーティングシステムの日付と時刻の規則に影響を与えません。

ログファイルにUSタイムゾーンの正しい時刻が記録されており、管理サーバーがこの変更の影響を受けていないことを確認するには、次のようにすることをお勧めします。

- 適切なオペレーティングシステムのパッチをダウンロードしてインストールします。Solaris パッチは <http://sunsolve.sun.com/search/document.do?assetkey=1-26-102775-1> からダウンロードできます。  
その他のプラットフォームの場合は、同様のDST互換パッチをオペレーティングシステムのベンダーのWebサイトからダウンロードしてください。
- Solaris、Windows、およびLinuxプラットフォームの場合は、JRE 1.5.0\_12を使用してProxy Serverを実行してください。HP-UXプラットフォームの場合は、JRE 1.5.0\_12を使用してProxy Serverを実行してください。

## マニュアルへのアクセス

Sun Java System Web Proxy Server 4.0.13のマニュアルはさまざまな方法で提供されています。

- マニュアル - Proxy Server 4.0.13のマニュアルおよびリリースノートは、HTML形式および印刷可能なPDF形式で参照できます。
- オンラインヘルプ - グラフィカルインタフェースの「ヘルプ」ボタンをクリックすると、関連した内容のヘルプウィンドウが開きます。

## 障害を持つユーザー向けのアクセシビリティ機能

このメディアの公開後にリリースされているアクセシビリティ機能(障害に配慮した機能)を入手する場合は、Sunが提供するSection 508製品アセスメントに目を通し、アクセシビリティソリューションを配備する上でどのバージョンが最適かを検討してください。最新バージョンのアプリケーションは <http://sun.com/software/javaenterprisesystem/get.html> から入手できます。

アクセシビリティ機能に対するSunの対応については、<http://sun.com/access> にアクセスしてください。

## 修正済みの問題

この節では、次のリリースで修正された最も重要な問題について説明します。

- 18 ページの「4.0.13 で修正された問題」
- 19 ページの「4.0.12 で修正された問題」
- 20 ページの「4.0.11 で修正された問題」
- 22 ページの「4.0.10 で修正された問題」
- 23 ページの「4.0.9 で修正された問題」
- 25 ページの「4.0.8 で修正された問題」
- 25 ページの「4.0.7 で修正された問題」
- 27 ページの「4.0.6 で修正された問題」
- 30 ページの「4.0.5 で修正された問題」
- 32 ページの「4.0.4 で修正された問題」
- 38 ページの「4.0.3 で修正された問題」
- 42 ページの「4.0.2 で修正された問題」
- 43 ページの「4.0.1 で修正された問題」

### 4.0.13 で修正された問題

次の表に、Sun Java System Web Proxy Server 4.0.13 で修正された問題を示します。

表 4 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.13 で修正された問題

ID	概要
6886805	ftp URL に対する POST 要求の処理中に、Proxy Server 4.0 が CPU 使用率の高いループに陥っているように見えます。これに伴ってメモリー使用量も増加します。
6896637	ftp HEAD 要求の処理中に Proxy Server 4.0 で CPU 使用率が上昇し、メモリーリークが発生します。
6896640	server.xml に GC 関連の設定が含まれていない場合、Proxy Server 4.0 が起動中にクラッシュします。
6900117	SSL/TLS の脆弱性に関する修正を含む NSS 3.12.5 を統合します。
6905852	キャッシュサブシステムのバグが原因で Proxy Server 4.0 がクラッシュします。
6917211	TRACE 要求に対して Proxy 4.0 でヒープオーバーフローが発生します。
6917212	digest authentication の処理中に Proxy 4.0 でバッファオーバーフローが発生します。
6862976	Proxy Server 4.0 の「map」SAF は、リモートサーバー上の特定のファイルへのマッピングを許可するべきです。
6875375	Proxy Server 4.0 管理 GUI の Cache View (cv) プログラムがクラッシュします。

表4 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.13 で修正された問題 (続き)

6878699	Proxy Server 4.0.8 で、grpfile ユーザーが複数のグループに属する場合に、このユーザーに関して .htaccess の問題があります。
6885145	"HTTP3287: connection limit (XXXX) exceeded, closing socket" 要求が ConnectionQueue のサイズを超えるたびに、Proxy Server 4.0 が上記のエラーメッセージを表示します。
6888184	Web Proxy Server 4.0.11 で、アップグレード後にインストーラが意味不明なメッセージを表示します。
6891353	Proxy Sever 4.0.x で \$ 文字が認識されません。
6895030	負荷の高い状況で、既存のロックファイルが原因でキャッシュ完了状態が存在しないか、または空である可能性があります。
6897536	Proxy 4.0 は現在、「Proxy-support: Session-Based-Authentication」によって保証された動作をサポートしません。
6898929	Proxy 4.0.13 は Microsoft Windows 2008 Enterprise Edition をサポートします。
6900151	キャッシュオブジェクトのサイズがリモートサーバーで変更されたあとにそのオブジェクトが更新中であり、チャンク化エンコードが使用される場合、キャッシュ完了状態がサーバーのアクセスログに存在しません。
6901079	バックエンドサーバーから受信する任意のエラー応答に対して Error ステージを必要に応じて実行するように http client を強化できます。
6906258	Proxy Server 4.0 は、dbswitch.conf で任意の LDAP 検索フィルタをサポートする必要があります。
6906789	負荷の高い状況で、破損したキャッシュファイルが Proxy 4.0 のインストールキャッシュに生成される可能性があります。
6910914	send-error で URL マッピングが機能しません。
6917873	ヘッダー名が空の TRACE 要求が原因で、Web Proxy Server 4.0 が不正な形式の応答を返す可能性があります。

## 4.0.12 で修正された問題

次の表に、Sun Java System Web Proxy Server 4.0.12 で修正された問題を示します。

表5 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.12 で修正された問題

ID	概要
6856153	ftp サブシステムで高負荷時に Proxy 4.0 がクラッシュします。
6856800	Proxy Server 4.0.8 で、高負荷環境下でマッピングキャッシュが壊れます。

表5 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.12 で修正された問題 (続き)

6869927	NSS 3.12 を統合します。
6882485	ICP が有効で MaxProcs が 1 より大きい場合に、Proxy Server 4.0 が起動中にクラッシュします。
6851886	妥当性検査のために ldap 接続プールを監視する専用スレッドを追加します。
6863071	(約 150 文字を超える) 長いクエリー文字列に対して Proxy Server 4.0 でキャッシュ処理が発生しません。
6864966	サービス名からバージョン番号を取り除くための機能要求 (Web Proxy Server 4.0.11)。
6864967	アップグレードのカスタム Web Proxy Server インストールで javahome をいつチェックするかをエンドユーザーに通知します。
6868580	4.0.12 でのバージョン変更。
6872808	Web Proxy Server 4.0 で Windows Server 2003 R2 SP2 をサポートすべきです。
6874449	Proxy Server 4.0 ビルドパッチスクリプトで、新しい buildpatch の場所の通知を受ける必要があります。
6876811	extended2 ログインで、SSL トンネルが初期待ち時間および全体待ち時間をログに記録しません。
6882926	Solaris x86 で Proxy Server 4.0 の ICP ポートが利用できません。
6883024	Proxy Server 4.0 のバイト範囲処理が誤っています。
6883480	キャッシュファイルの検索中に Proxy Server 4.0 が「不正な CIF エントリ」メッセージを表示します。
6883492	Proxy Server 4.0 が、x86 上のピアによる ICP メッセージを受信しません。
6878213	send-error が、エラーファイルのパスをブラウザのロケールに基づいて選択する必要があります。

## 4.0.11 で修正された問題

次の表に、Sun Java System Web Proxy Server 4.0.11 で修正された問題を示します。

表6 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.11 で修正された問題

ID	概要
6835885	Proxy Server 4.0 の ftp サブシステムには、メモリー破壊やサーバークラッシュを引き起こすバグが含まれています。
6837779	ftp 経由でディレクトリにアクセスしているときに、Proxy Server 4.0 の ftp サブシステムでメモリーリークが発生します。

表6 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.11 で修正された問題 (続き)

6842576	Proxy Server 4.0 のキャッシュサブシステムはメモリー破壊を引き起こすバグを含んでおり、応答がキャッシュから取り出される場合に不完全な応答ヘッダーを返します。
6844188	FTP 要求に対する応答をキャッシュから取り出しているときに、メモリー破壊により Proxy Server 4.0 がクラッシュする可能性があります。
6847078	Proxy Server 4.0 のキャッシュサブシステムは要求を処理する際に、破壊されたキャッシュファイルを特定し、そのようなファイルを処理しないようにすべきです。
6847467	pre-filter SAF を使用するように Proxy Server 4.0 を設定すると、サーバーがクラッシュします。
6853447	pre-filter SAF に関連付けられたスクリプトの先頭に空行が含まれていると、Proxy Server がクラッシュします。
6827602	Proxy Server 4.0 の統計生成で、「Client DNS cache」(host-to-ip)、「Host DNS cache」(ip-to-host) の両方に対するデータが表示されるべきです。
6836430	Proxy Server 4.0.9 で Expires ヘッダーが正しく処理されません。
6837471	Proxy Server 4.0.9 が Linux 上で統計ページの表示に失敗し、「500 Error」をスローします。
6838323	Proxy Server 4.0 で <NameTrans fn="set-variable" error="504"> を処理する際に、不正な「504 Gateway Timeout Error」が表示されます。
6838907	Proxy Server 4.0 用の Windows Installer が、サーバーインスタンスでは 1024 未満のポート値を許可しないのに、管理サーバーでは許可します。
6843724	Proxy Server 4.0 のガベージコレクションで、高負荷時に競合状態が発生することがあります。
6847488	Proxy Server 4.0 の管理インタフェースのバグにより、「+」文字を含むテンプレート割り当ての編集が困難になっています。
6847849	Proxy Server 4.0 の管理インタフェースでキャッシュの「Working Directory」を変更したときに、server.xml ファイルが更新されません。
6848296	Proxy Server 4.0 で、ACLCacheMax パラメータの使用中に認証の問題が発生します。
6849204	Proxy Server 4.0 で、parray モジュールの問題によりメモリー破壊やサーバークラッシュが発生する可能性があります。
6849650	MaxProcs が 1 より大きい値に設定されていると、再起動中に Proxy Server がクラッシュします。
6853436	「Set Cache Specifics」によるキャッシュサイズの更新中に server.xml が更新されません。
6808135	Proxy Server 4.0.9 の管理 GUI、管理 CLI の両方で、「Server Config Information」パネルにアクセスしているときに誤植の問題が発生します。

表6 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.11 で修正された問題 (続き)

6825292	Proxy Server 4.0 の管理 GUI で、ip-dns-cache-init、host-dns-cache-init の両方のタイプの DNS キャッシュを有効化または無効化できるようにすべきです。
6840526	Proxy Server 4.0 で pararray コードの問題が発生する可能性があります。
6841509	Proxy Server のインストール中に「Startup on Boot = yes」を選択すると、エラーが発生します。
6843134	自動 GC の冗長ロギングモードが必要です。

## 4.0.10 で修正された問題

次の表に、Sun Java System Web Proxy Server 4.0.10 で修正された問題を示します。

表7 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.10 で修正された問題

ID	概要
6764910	動的再構成が原因で Proxy Server 4.0 がクラッシュします。
6783252	Proxy Server 4.0 は、リモートサーバーによって non-cacheable としてマークされた応答に対し、キャッシュ完了ステータスを表示すべきです。
6793247	Proxy Server が HTTP 要求ヘッダー内のキャッシュ指令を無視できるようにすべきです。
6559322	Proxy Server は、32G バイトを超える大きなサイズの Web プロキシキャッシュをサポートする必要があります。
6773378	URL フィルタリングで相対 URL を指定できるようにする必要があります。そうすれば、URL フィルタリングと負荷分散を併用しやすくなります。
6781954	Cookie の指定に使用される、URL マッピング機能の passthru-cookies パラメータが正しく機能しない場合が、ごくまれにあります。
6785653	プロキシ認証を含む POST の送信前に認証が行われていなかった場合、その POST が 407 エラーで失敗します。
6789769	URL フィルタ機能で CONNECT 要求が考慮されません。
6791870	Proxy Server の管理インタフェースで、同じ宛先への逆マッピングを複数作成することができません。
6798154	空白と単一引用符を含む特定の url 構文が、Proxy Emulator によって正しく変換されません。
6804616	Proxy Server 4.0.10 は次の機能をサポートします - HTTP/1.1 要求に対する透過プロキシのサポート。
6803379	Sun Java System Web Proxy Server 4.0.9 のパッチ 120983-16 とそれより前のバージョンは、RHEL 3.0、4.0、および 5.0 のサポートを提供します。

表7 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.10 で修正された問題 (続き)

ID	概要
6796045	Proxy Server の管理インタフェースで、監視機能の DNS キャッシュ情報が適切に更新されるべきです。
6754044	Windows マシンで Proxy Server のアップグレードが失敗します。なぜなら、Windows マシンでは、Proxy Server 4.0 のインストールは1つしか存在できないからです。
6781259	Proxy Server のインストールウィザードで Java のバージョン情報が更新されません。
6820625	url で引用符のあとに空白が存在していると、URL の書き換えが失敗します。
6820622	without-lastmod が有効になっている場合に、Proxy Server が不正な If-modified-since: 要求ヘッダーを挿入します。
6817164	cbuild に、-R オプションの適切なヘルプメッセージを含めるべきです。
6816997	Proxy Server 4.0 の map SAF の HTTP リダイレクト機能に問題があります。
6812802	HPUX 上で「 <b>Activate Statistics/Profiling</b> 」を有効にしても、DNS に関するプロキシ統計が表示されません。
6805450	DHML アプリケーションの使用中に Web Proxy Emulator で問題が発生します。

## 4.0.9 で修正された問題

次の表に、Sun Java System Web Proxy Server 4.0.9 で修正された問題を示します。

表8 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.9 で修正された問題

ID	概要
6712042	Proxy Server 4.0 の cache_filter_remove 機能でインスタンスがハングアップします。
6713723	Proxy Server 4.0 で、キャッシュのパーティションとセクションの .size ファイルに正確な値が表示されない場合があります。
6715885	Proxy Server 4.0 でキャッシュのロックファイルの問題に関するログのエラーメッセージがレポートされました。
6715891	Proxy Server 4.0 で CONNECT 要求のために作成されたテンプレートが正常に機能しません。
6721344	Proxy Server 4.0 にクライアントヘッダーを書き換えるための機能を実装するべきです。
6722629	Proxy Server 4.0 が PORT モードで構成される場合、FTP サブシステムでファイル記述子がリークします。
6722646	Proxy Server 4.0 で HTTP の部分応答の処理中に、キャッシュサブシステムでファイル記述子がリークします。

表 8 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.9 で修正された問題 (続き)

ID	概要
6723344	Proxy Server 4.0 の起動時に、キャッシュ統計情報収集ロジックが完全なキャッシュトラバーサルを実行します。これが何度も実行されることが原因で、サーバーの起動が遅くなります。
6725741	Proxy Server 4.0 の管理インターフェースの統計またはプロファイルの機能を無効にできません。
6727215	Proxy Server 4.0 のアクセスログで、大きい負の値が xfer-time に存在します。
6728447	Proxy Server 4.0.7 では、URI にバックスラッシュの付いたクエリースtringが含まれる場合には、ダイジェスト認証は ACL ファイルを処理していました。
6735228	Proxy Server 4.0 のキャッシュサブシステムで、特定の状況下でファイル記述子がリークします。
6739585	Proxy Server 4.0 で現在のキャッシュサイズを確認するための、より早い方法が必要です。
6740248	Proxy Server 4.0.7 で、管理 GUI の「Processes」と「Listen Queue Size」にデフォルト値ではなく NULL が表示されます。
674126	Proxy Server 4.0 のキャッシュサブシステムで性能最適化が必要です。
6745095	Proxy Server 4.0 はヘッダー名にスペースが埋め込まれた HTTP 応答を許容するべきです。
6745170	Proxy Server 4.0 は RHEL5 上でもサポートされるべきです。
6746138	Proxy Server 4.0 は HTTP 要求のボディを書き換える機能を実装するべきです。
6747928	Proxy Server 4.0 を経由する FTP 要求に ftp://user:password@server などの @ 記号を含むパスワードがあると不正な応答が生成されます。
6750791	ACL サブシステムに問題があるため、Proxy Server 4.0.7 がロード中にクラッシュします。
6759153	URL のマッピングサブシステムに問題があるため、Proxy Server 4.0.8 がクラッシュします。
6762346	Proxy Server 4.0 で cache-control ヘッダーが適切に処理されません。
6768244	Proxy Server 4.0 でチャンネルのプールロジックが正常に機能しないため、サービスが利用できなくなります。また、メモリーリークの可能性があります。
6275141	Proxy Server 4.0 でファイルキャッシュ機能が実装されていません。
6767688	Proxy Server 4.0 で cache-control 指令の「only-if-cached」をサポートするべきです。
6767691	Proxy Server 4.0 で cache-control 拡張の「stale-while-revalidate」をサポートするべきです。

## 4.0.8 で修正された問題

次の表に、Sun Java System Web Proxy Server 4.0.8 で修正された問題を示します。

表 9 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.8 で修正された問題

ID	概要
6648112	Proxy Server 4.0.6 と 4.0.7 には EPSV FTP 転送モードを無効にする方法が用意されていません。
6655221	Proxy Socks Server 4.x. 上でアイドル接続のための最大タイムアウトを長くしてください。
6660265	flexanlg/dpstats ログアナライザが大きなアクセスログファイルを処理できません。
6260814	Proxy Server 4.0 で、より一層具体的なオブジェクトのブロック/フォワード IP 文字が正しく適用されません。
6664392	Proxy Server 4.0 で、vary ヘッダーが適切に処理されません。
6664646	Proxy Server 4.0 で、via ヘッダーが適切に処理されません。
6670738	Proxy Server 4.0 の FTP サブシステムで「CPU の利用率が高い」問題が発生する可能性があります。
6688600	Proxy Server 4.0.7 管理 GUI の「Caching」の「Schedule Garbage Collection」ページを使用すると、am が server.xml に追加されます。
6692494	Proxy Server 4.0 でクライアントへの書き込みに失敗したときに、キャッシュファイルが開いていないときでもキャッシュフィルタによってマスクされます。
6692495	Proxy Server 4.0 がガベージコレクション/キャッシュ反復コード中にクラッシュすることがあります。
6695257	URL マッピング機能を統合します。
6707473	FTP Proxy Server に、ヒープベースのバッファオーバーフローが存在します。
6708838	Proxy Server 4.0 で JDK 1.5 にアップグレードしてください。
6708842	Proxy Server 4.0 の遠隔測定機能。
6711396	顧客ログファイル内の dpstats ダンプコア。
6454382	逆プロキシは、set-cookie で Cookie domain 値の変更を許可すべきです。

## 4.0.7 で修正された問題

次の表に、Sun Java System Web Proxy Server 4.0.7 で修正された問題を示します。

表 10 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.7 で修正された問題

ID	概要
6729343	<p>サーバーの実行中に Windows 2003 上で Proxy Server 4.0.7 にアップグレードすると失敗します。</p> <p>サーバーを停止せずに Windows 上で Proxy Server 4.0.6 から Proxy Server 4.0.7 にアップグレードすると、エラーによって処理に失敗します。</p> <p>サーバーを停止してからアップグレードすれば、アップグレードが正常に実行されます。</p>
6261401	URL フィルタファイルは、conf_bk ディレクトリではなく config ディレクトリの下に作成されるべきです。
6590476	FTP サブシステムが古い接続を正しく閉じません。
6591980	URL フィルタの所有権がサーバーインスタンスユーザーの所有者に設定されません。
6592079	バックアップファイルが間違った所有権で作成されています。
6594729	HTTP7756: 無効なレスポンスヘッダーを受信するが、ファイルがクライアントに提供されます。
6595773	Proxy Server 4.0.5 の FTP に不正なディレクトリリストが表示されます。
6596860	プールされた FTP 接続がリセットバケットを受信したら、Proxy Server は正しい応答を返すべきです。
6599212	無効な接続のための FTP 接続プールを監視する専用のスレッドが追加されます。
6600193	Proxy-Agent ヘッダーが動作しません。
6602044	ページを何度も再読み込みする間に、不正な FTP 応答が発生します。
6602049	ファイルアイコンやフォルダアイコンなどの internal オブジェクトに対する FTP 要求の処理を改善する必要があります。
6604108	無効な応答ヘッダーの処理中に、不正な応答が発生します。
6605322	キャッシュエントリを高速で削除するために、インプロセスクリーニング機能が提供されます。
6613934	ダイジェスト認証で、ユーザーが繰り返し認証を求められます。
6619592	削除したインスタンスに対して httpacl とエイリアスのディレクトリが存在します。
6620274	Proxy Server 4.0.6 では、親ディレクトリが存在しない場合、新しいキャッシュの作業用ディレクトリが作成できません。
6621398	Proxy Server 4.0.6 では、FTP サーバーのバックエンドにマップを転送しようとする、FTP サーバーが機能しなくなります。
6622805	Proxy Server 4.0 は、特定の FTP URL にアクセスしている間に応答なくなり、タイムアウトになります。

表 10 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.7 で修正された問題 (続き)

ID	概要
6622813	Proxy Server 4.0 は、 キャッシュサイズが大きい場合、 起動に非常に時間がかかります。
6628381	キャッシュが無効にされたプロキシインスタンスはきれいに削除できません。
6634127	メモリーが破損するとサーバーがクラッシュします。
6635864	管理インタフェースの「Manage Certificates」画面が正しく表示されません。
6639455	停止または再起動時に、プロキシサーバーが応答しません。
6641201	Proxy-Authenticate ヘッダーが転送プロキシ内でエンドクライアントに正しく渡されません。

## 4.0.6 で修正された問題

次の表に、 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.6 で修正された問題を示します。

表 11 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.6 で修正された問題

ID	概要
6224535	タイムアウト機能が動作しません。
6460215	プロキシサーバーを経由して接続する場合、 IPv6 対応の Web サイトに接続できません。
6478413	プロキシサーバーインスタンスをアンインストールしても、 alias および httpacl ディレクトリから、 インスタンスに対応したファイルが削除されません。
6494418	content-type パラメータが設定されている場合、 block-multipart-posts が要求をブロックしません。
6505578	sockd デーモンが、 UDP 関連の要求を処理するときにワークスレッドを使い切ってしまうことがあります。
6513846	Proxy Server 4.0.6 のマニュアルが更新されて、 HTTPS キャッシュへの参照が削除されています。
6514870	テンプレートの削除オプションでテンプレートを削除しても、 そのテンプレートの割り当ての一部が削除されません。
6520593	構成の設定内で使用されるテンプレートが機能せず、 手動入力した正規表現が機能する理由を説明するために、「キャッシュ構成の設定でのテンプレートに対する正規表現の優先」という新しい節が『Proxy Server 4.0.6 管理ガイド』の第 16 章に追加されました。
6526659	インストーラで、 間違ったサーバー起動コマンドが表示されます。

表 11 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.6 で修正された問題 (続き)

ID	概要
6529376	Windows でのプロキシサーバーのデフォルトキャッシュサイズは 100M バイトですが、ヘルプページには 1.6G バイトと記されています。
6530476	起動スクリプトでの libjvm.sl ファイルへのパスが正しく設定されていません。
6534717	アクセスログで cache-status が有効になっている場合、ヘッダーで cache-control を no-cache に設定した要求を行うと、キャッシュファイルが書き込まれ削除されたというログが、アクセスログに繰り返し表示されます。
6537346	キャッシュファイルが作成されていない場合でも、ログエントリで、キャッシュステータスが書き込み済みと表示されます。
6538613	プロキシインスタンスのキャッシュディレクトリが変更された場合、cachegc がコアダンプします。
6541327	cachegc が間違っ動作する場合があります。
6545753	プロキシサーバーが無効な要求行を検出した場合、紛らわしいエラーメッセージがエラーログに表示されます。
6546256	Windows で正規表現が obj.conf に正しく登録されません。
6546720	DNS キャッシュを有効にしている場合、特定のサイトに接続できません。
6547808	Windows でサービスマネージャーによりプロキシインスタンスを停止した場合に watchdog プロセスがクラッシュします。
6559837	ftp 要求の処理中にプロキシサーバーがクラッシュします。
6560432	『Proxy Server 4.0.6 管理ガイド』とオンラインヘルプが更新されて、ソースポート番号についての説明が追加されています。
6562122	SSL プロキシインスタンスの場合、間違ったパスワード入力がエラーファイルに書き込まれません。
6562165	『Proxy Server 4.0.6 管理ガイド』が更新されて、ファイルキャッシュ機能への参照が削除されています。
6562585	『Proxy Server 4.0.6 リリースノート』が更新されて、NSPR の正しいバージョン番号が記されています。
6563262	ftp アクセス中に、情報がなく誤解される可能性があるエラーログメッセージが表示されます。
6564435	管理インタフェースにキャッシュセクションテーブルの詳細が正しく表示されません。
6565004	『Proxy Server 4.0.6 リリースノート』が更新されて、Proxy Server のマニュアルページへの正しいリンクが記されています。
6565021	2つのスケジュールされたローテーション間でシステム時間が変更されると、内部ログのローテーションがファイルのローテーションを2回行う。

表 11 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.6 で修正された問題 (続き)

ID	概要
6565436	『Proxy Server 4.0.6 管理ガイド』の第 14 章の「逆プロキシの設定」節にある「逆プロキシ設定での順プロキシ機能の無効化」項が更新されて、逆プロキシサーバー構成でセキュリティ上の脆弱性を防止する方法に関する情報が追加されています。
6566246	エラーログ表示機能でのクロスサイトスクリプティング脆弱性。
6566309	URL データベース表示機能でのクロスサイトスクリプティング脆弱性。
6566352	プロキシサーバーを経由して IPv6 FTP サーバーに接続できません。
6566822	HTTP ヘッダーの値が非常に長い場合、プロキシサーバーでメモリー内容の破壊が生じることがあります。
6566836	flexanlg がコアダンプします。
6566889	「Configure System Preferences」ページでプロセスの値を設定したあと、値を null に戻せません。
6566924	ヘルプページが更新されて、「Configure System Preferences」ページのプロセスについてよりわかりやすく説明されています。
6568534	Proxy Server 3.6 のマニュアルに関連した問題への参照が、『Proxy Server 4.0.6 リリースノート』から削除されています。
6569516	Proxy Server が、ヘッダー名に空白が含まれていても応答を受け入れ、転送します。
6572128	ローカライズされたオンラインヘルプが更新され、関連した内容のヘルプページが正しく表示されるようになりました。
6572138	特定の接続に関連する情報がアクセスログに含まれません。
6574401	Proxy Server でサポートされるブラウザの範囲が広がり、Internet Explorer (IE) v7 も含まれています。
6576044	『Proxy Server 4.0.6 Configuration File Reference』が更新されて、新しく追加された SOCKS 構成パラメータ SOCKS5_UDPASSOC_TIMEOUT について説明されています。
6576050	Proxy Server 4.0.6 オンラインヘルプが更新されて、HTTP クライアントの再試行機能の効果について説明されています。
6576065	Sun のスタイルガイドラインとプロキシサーバーの製品ユーザーインタフェースに一致するように、Proxy Server 4.0.6 オンラインヘルプが更新されています。
6577128	Sun Crypto Accelerator 6000 に対応するよう、プロキシサーバーのサポートが拡張されています。
6578024	LDAP 接続障害エラー。
6578560	アップグレード後にプロキシサーバーが表示する、管理サーバーへのアクセス方法を示したメッセージで、サーバー名とポート名が null と示されます (http://null:null)。

表 11 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.6 で修正された問題 (続き)

ID	概要
6579049	プロキシサーバーが間違ったパーティションを作成するため、起動時にエラーが発生します。
6579781	virt-map 指令で host-regex 引数が空の場合、プロキシサーバーがクラッシュします。
6581350	プロキシサーバーのインストールにデバッグ JDK バイナリが含まれています。
6584989	ブラウザが IE 7 の場合、「Version」ウィンドウで「閉じる」ボタンの中央にラベルが配置されません。
6594191	ローカライズされたオンラインヘルプは Proxy Server 4.0.6 に統合する必要があります。

## 4.0.5 で修正された問題

次の表に、Sun Java System Web Proxy Server 4.0.5 で修正された問題を示します。

表 12 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.5 で修正された問題

ID	概要
6240773	待機ソケットを削除してサーバーを再起動しても、ポートがクリアされません。
6390867	Windows で、キャッシュされた csv ファイルの情報を表示しようとする、cv.exe が失敗します。
6391439	管理インタフェースで DNS サブドメインの有効化オプションをクリアしても、obj.conf ファイルから DNS fn="dns-config" local-domain-levels="0" という行が削除されません。
6413536	webservd はデフォルトユーザーとして使用する必要があり、nobody には設定できません。
6463455	『Proxy server 4.0.5 リリースノート』が更新されて、プロキシサーバーをサポートする Sun Crypto Accelerator のバージョンが記載されています。
6466910	『Proxy Server 4.0.5 管理ガイド』が更新されて、プロキシサーバーを操作するための Sun Crypto Accelerator の設定手順について説明されています。
6482102	プロキシサーバーを経由して接続したときに、特定の FTP サイトから Web ブラウザを通してファイルを取得することができません。
6500200	管理インタフェースに有効期限の切れたページが表示されません。
6500224	SOCKS ルーティングを経由する FTP が機能しません。

表 12 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.5 で修正された問題 (続き)

ID	概要
6500232	Proxy Server 4.0.5 のオンラインヘルプが更新されて、「Monitoring Server Status」ページに関するヘルプページにキャッシュについての説明が追加されています。
6500547	SOCKS ルーティングを経由する FTP によってファイルが損傷することがあります。
6506550	サブシステムをキャッシュするときに null ポインタアクセスが発生すると、プロキシサーバーがクラッシュすることがあります。
6513846	『Proxy Server 4.0.5 リリースノート』が更新されて、プロキシサーバーが HTTPS のキャッシュをサポートしていないことが説明されています。
6517969	obj.conf と ACL の処理が期待どおりに動作しません。
6520629	管理インタフェースの「Configure Virtual Multihosting」ページで、host-regex にユーザーポート番号が許可されません。
6521610	管理インタフェースの「Set Cache Specifics」ページを使用してキャッシュを有効化した場合、obj.conf ファイル内の "cache-disable" 行が削除されません。
6523139	プロキシサーバーのデバッグビルドでは、ログされない情報があります (切断など)。
6524253	プロキシサーバーのウォッチドッグのコアダンプ。
6524898	キャッシュ構造が cbuild.exe によって作成されている場合、インスタンスの起動後にキャッシュ内の .sects ファイルが空になります。
6525294	ログファイル内の構文に問題がある場合、flexanlg ユーティリティーはコアダンプします。
6526297	プロキシサーバーの管理インタフェースの「Manage Section」ページには、すべてのパーティションのすべてのセクションが表示され、パーティション間でセクションを移動する方法が示されます。しかし、この機能は正しく動作しません。
6526354	新しいパーティションを追加するとセクションが1つ作成されます。
6526964	SOCKS v5 サーバーによってセッションが予期せず切断されます。
6526990	Proxy Server 4.0.4 オンラインヘルプのローカライズ版のリンクが正しく機能していません。
6527840	管理インタフェースを使用して SOCKS サーバーをシャットダウンすると、起動時に表示されるのとは異なるメッセージが表示されるようになります。
6528069	プロキシサーバーで使用可能なキャッシュパーティションの最大数は 32 ですが、Proxy Server 4.0.3 では 32 個のパーティションを作成できません。
6529305	仮想マルチホストを使用するときに、ホストを大文字で指定すると機能しません。
6534208	4.0.5 リリースでは、バージョンの文字列を変更する必要があります。

表 12 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.5 で修正された問題 (続き)

ID	概要
6537410	プロキシサーバーは、Web サーバーが接続を閉じるまで、新しいhttp 要求の受信を待機することがあります。
6537736	プロキシサーバーには、ドメインバッファオーバーフローによる脆弱性があります。この問題は、sockd デーモン内でドメイン名のアドレスタイプを処理する場合に明確に現れます。
6537745	プロキシサーバーには、ドメインバッファオーバーフローによる脆弱性があります。この問題は、sockd デーモン内の s5auth_userpass () 関数で明確に現れます。
6538060	プロキシ管理サーバーの startsvr および stopsvr スクリプトが、proxy-admserv405 ではなく proxy-admserv404 を参照します。
6538173	HP-UX では、プロキシインスタンスに待機ソケットを追加しようとすると、管理サーバーにエラーページが表示されます。
6539318	Linux では、ユーティリティ cbuild が機能しません。
6539689	Linux では、グループ ID 80 がすでに存在しているとプロキシサーバーのインストールが動作せず、インストールが失敗しても正しいインストールログが作成されません。
6544263	Proxy Server 4.0.5 オンラインヘルプの英語版が変更されたら、ローカライズ版も更新する必要があります。
6545267	『Proxy Server 4.0.5 Configuration File Reference』のログパラメータに関する情報が更新されています。

## 4.0.4 で修正された問題

次の表に、Sun Java System Web Proxy Server 4.0.4 で修正された問題を示します。

表 13 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.4 で修正された問題

ID	概要
4973509	Cache-Control 指令が private=list あるいは no-cache=list の場合、複数の値に対してはサポートされていません。
4973523	HEAD 要求はキャッシュされません。
4973652	プロキシサーバーは、65536 バイトの長さの URI をサポートしません。
4999184	プロキシサーバーが Web サーバーをポイントする逆プロキシモードで構成されている場合、Web サーバーがダウンした場合に表示されるエラーメッセージにプロキシサーバーを利用していることが表示されるべきではありません。
5093104	プロキシサーバーの管理インタフェースでは、クライアント IP 転送で HTTP ヘッダーのあとに空白を入れることができます。

表 13 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.4 で修正された問題 (続き)

ID	概要
6208895	プロキシサーバーを経由して Microsoft IIS FTP サーバーに送信される FTP 要求が機能しません。
6214329	「HTTP4352: zlib internal error」がエラーログとしてエラーに記録されています。
6233086	マルチバイトのユーザー名でクライアント資格を送信する場合、有効性チェックを追加する必要があります。
6243358	削除されたユーザーがグループの一部として表示され続けます。
6245972	「Administer Access Control」 ページで設定したユーザー権限が機能しません。
6246562	クラスタを使って別のロケールおよびプラットフォームにインストールされた一連のサーバーの停止に失敗します。
6253844	「zh-cn」ロケールではプロキシサーバーのオンラインヘルプが英語で表示されません。
6255761	インストーラのヘルプページにコンテンツがありません。
6255838	SOCKS サーバーを停止せずにプロキシサーバーインスタンスを削除し、新しいインスタンスを作成すると、ポートが使用中であるため、新しいインスタンスで SOCKS サーバーを起動できません。
6256442	インストーラは、英語で「Password should be at least 8 characters」というエラーメッセージを表示します。
6266497	管理インタフェースは、重複したポート番号の使用を「Add Server」 ページで許可してしまいます。
6268356	Windows で、system32 ディレクトリに libnspr4.dll が存在しない場合に SNMP サービスが動作しません。
6274424	Windows で状態ファイルの defaultInstallDirectory の値が間違っています。インストーラでのデフォルトインストールディレクトリは c:\sun\ProxyServer40 ですが、setup --savestate コマンドを使用して生成された状態ファイルに c:\sun\ProxyServer40 がデフォルトインストールディレクトリとして存在しません。状態ファイルはデフォルトインストールディレクトリとして UNIX テンプレート値を表示します。
6304981	Linux マシンに ksh がインストールされていない場合、プロキシサーバーのインストールが失敗します。
6310283	プロキシサーバーの管理インタフェースでは、タブに間違ったページコンテンツが表示されることがあります。
6312087	ローカライズされたオンラインヘルプは、関連した内容を表示しません。
6313904	管理サーバーは、別の IP アドレスで使用されているポート番号での待機ソケットの設定を許可しません。

表 13 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.4 で修正された問題 (続き)

ID	概要
6321797	『Proxy Server 4.0.3 Configuration File Reference』は、flex-init パラメータno-format-str.access の情報により更新されています。
6331035	負荷分散機能は、正規表現でのみ機能します。
6333355	ACL キャッシュが有効になっている場合、ACL のユーザーおよびグループの定義は LDAP エントリの場合と正確に一致した ACL キャッシュをする必要があります。
6337657	分散管理の構成を試行すると、プロキシサーバーは内部サーバーエラーメッセージを表示します。
6369549	JavaES 5 にプロキシのパッチをインストールすると、Linux にエラーが発生します。
6371618	「Compression Level」を「なし」に変更できません。マニュアルに、圧縮レベルとして何を選択するか記述する必要があります。
6380736	「Set GC Preferences」ページで「Explicit GC」を選択した場合、「Schedule GC」ページが表示されません。
6382393	プロキシサーバーは FTP のアップロードを実行できません。
6382692	移行中、3.6 obj.conf 内の書式文字列 Req->vars.pauth-user は Req->vars.auth-user に変更されるべきです。
6383320	コンテンツファイル名に空白文字または日本語の文字が含まれる場合、キャッシュファイルを削除できません。
6383435	sockd プロセスは、Linux で大量のメモリーを使用します。
6387166	プロキシサーバーの管理インターフェースの「View Server Settings」ページで、MaxProcs 値が表示されません。
6388818	SOCKS サーバーでは、ディレクトリサービス ID をデフォルトにする必要があります。
6390034	libspr4.dll は、system32 ディレクトリではなく、<install-dir>\bin\proxy\bin ディレクトリで最初に参照されるべきです。
6390054	管理インターフェースのバージョンウィンドウで著作権の年を変更する必要があります。
6399395	「Select Directory Service」ページがディレクトリサービスの選択肢を反映しません。
6402589	http-client-config 機能は、より一層具体的なオブジェクトの設定を適用しません。
6411505	管理インターフェースの「Redirect URL」ページが予想通りに機能しません。
6412129	Proxy Server 3.6 インスタンスに fn="block-ip" という設定が見つからない場合、Proxy Server 4.0 移行ツールがその行を追加する必要があります。
6414355	Linux でコマンド batchupdate を無効な bu.conf ファイルで実行すると、セグメンテーションのエラーを引き起こします。

表 13 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.4 で修正された問題 (続き)

ID	概要
6415125	コンパイラを Sun Studio 8 から Sun Studio 10 に変更します。
6416272	サーバーユーザーの変更後、プロキシサーバーが正しく起動しません。
6417755	「Previous」、「Main」、「Next」などのリンクがプロキシサーバーのオンラインヘルプでローカライズされていません。
6419925	プロキシサーバーで、さらに多くのキャッシュ関連の統計情報が必要です。
6423487	オンラインヘルプに DNS 統計を有効にする方法についての詳細が追加されました。
6425025	url-prefix パラメータが明示的に指定されていないかぎり、指令 host-map が機能しません。
6425026	プロキシサーバーは Accept-Encoding ヘッダーに基づいてキャッシュオブジェクトを識別する必要があります。
6425038	プロキシサーバーは、cache-local の値を 1 に設定して逆プロキシとして動作している間は query-maxlen を考慮しません。
6425601	特定の状況で、自動ガベージコレクションが機能しません。
6425752	キャッシュからの 304 応答でヘッダーが重複しています。
6426543	キャッシュの反復子の処理でメモリーリークが発生しています。
6427137	プロキシサーバーは応答でマイクロバージョン番号を送信します。
6433285	プロキシのコアエラーメッセージの一部がローカライズされません。
6433776	コマンド cbuild の実行時、.sects ファイルが作成されません。
6433807	Windows で、プロキシサーバーと管理サーバーがスタートアップメッセージに誤ったバージョン番号を表示します。
6434137	プロキシサーバーがタイムアウト時に誤ったエラーメッセージを表示します。
6435491	『Proxy Server 4.0.4 Configuration File Reference』の第 5 章のサービスの派生についての節で、type パラメータへの参照が削除されています。
6441601	『Proxy Server 4.0.4 管理ガイド』の第 5 章に、証明書発行局のルート鍵または自己署名アプリケーションをロードする必要性を説明するために注記が追加されています。
6442054	『Proxy Server 4.0.4 管理ガイド』の第 5 章「SSL を使用した LDAP との通信」節で、LDAP ルート CA 証明書のプロキシサーバーへのインポートについての情報が更新されています。
6442071	『Proxy Server 4.0.4 管理ガイド』の第 5 章に、管理サーバーへのアクセスのセキュリティ保護について説明する新しい節が追加されています。

表 13 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.4 で修正された問題 (続き)

ID	概要
6442090	『Proxy Server 4.0.4 Installation and Migration Guide』で、次のことを明らかにするために説明が追加されています。 - Web Proxy Server は root 以外のユーザーとしてインストールできます。 - Web Proxy Server は root 以外のユーザーとして実行できます。
6442091	キャッシュは、期間に必要な遅延を追加して <code>current_age</code> の値を正しく計算できる必要があります。
6442641	Proxy Server 4.0 が、コンテンツ長を指定する CONNECT 要求で正常に動作しません。
6443160	HP-UX では、zlib ライブラリが JavaES 5 向けの製品とともにパッケージされる必要があります。
6443720	アクセスログファイルにログ情報が含まれていない場合は、Log Analyzer に問題がある可能性があります。
6443731	Windows 2000 SP4 で JavaES 環境での設定後、システムを再起動する必要があります。
6444332	HP-UX で <code>batchupdate</code> を無効な <code>bu.conf</code> で実行すると、セグメント例外を引き起こします。
6444363	HP-UX で、ルートユーザー以外ではプロキシインスタンスは作成されません。
6444942	存在しないインスタンス上でコマンド <code>cachegc</code> を実行すると失敗します。
6445440	エラーメッセージのローカライズが不完全です。
6446098	HP-UX で「View URL Database」ページに内部エラーがあります。
6446349	HP-UX での負荷テストの結果、 <code>mmap()</code> 障害が発生しました。
6446933	『Proxy Server 4.0.4 Configuration File Reference』で、 <code>docs</code> ディレクトリへの参照が削除されています。
6447423	Proxy Server 4.0 で、デーモンの構造が正しく開放されないためにメモリーリークが発生しています。
6447427	Proxy Server 4.0 で、共通クライアントのチャネルの取得中にメモリーリークが発生しています。
6447476	プロキシサーバー管理インタフェースで、キャッシュパーティションのサイズが常に 0 と表示されます。
6450886	<code>socks5.conf</code> パラメータ <code>SOCKS5_TIMEOUT</code> の新しい最大値である 360 分が『Proxy Server 4.0.4 Configuration File Reference』に記載されています。
6454032	<code>Address</code> 指令が設定されるたびに、プロキシサーバーが同じポートにバインドされません。
6455411	Windows で、プロキシサーバーが JavaES 4 と JavaES 5 の共存をサポートする必要があります。

表 13 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.4 で修正された問題 (続き)

ID	概要
6459839	キャッシュを使用不可にしてプロキシサーバーを 3.6 から 4.0.3 に移行すると、使用できないサーバーインスタンスが発生します。
6461889	変換されたデータが HTML フィルタによって破壊されました。
6461896	HTML タグフィルタがソースドキュメントを変換した際に、コンテンツ長を更新していません。
6461991	proxyResources.properties ファイルの英語ソースに文字の間違いがあります。
6462366	HP-UX で SOCKS ネームサーバーの設定後、プロキシサーバーの再起動が失敗しました。
6463404	あるユーザーがすべてのプログラムへのアクセスを許可された場合、分散管理が正しく機能しません。
6463927	テンプレートファイル WSPProp.properties に Windows プラットフォームのエントリが含まれます。
6465608	Windows でプロキシサーバーのインストール時に、管理サーバー用に「Stop Admin Server」のショートカットが作成されません。
6465984	ファイル proxyResources.properties に重複したキーが含まれています。
6466452	プロキシサーバーが、インストーラレジストリキーを Entsys から Entsys5 に更新する必要があります。
6467644	Windows Server 2003 Enterprise プラットフォームで、reconfig.bat の実行が失敗しました。
6470294	Windows で、キャッシュのセクションを減らすために cbuild.exe を実行しても、セクションが正しく削除されません。
6473677	JavaES 4 システムでパッチ 120981-08/120982-08 を適用後、プロキシサーバーが起動しません。
6478407	『Proxy Server 4.0.4 管理ガイド』の第 7 章「SSL が有効なサーバーの起動」節で、起動スクリプトの修正を促す提案が削除されています。
6480637	プロキシサーバーが 1 時間置きにクラッシュします。
6484781	分散管理を有効にしたあと、認証されていないユーザーまで管理サーバーにログイン可能になります。
6485988	『Proxy Server 4.0.4 Configuration File Reference』の第 5 章の送信エラーについての節が更新されて、Web Server の HTTP レスポンスには送信エラーは影響しないという注記が追加されています。
6505480	HP-UX でのプロキシサーバーのスタンドアロンインストールで、HP-UX 11.11 でのインストールが失敗します。

表 13 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.4 で修正された問題 (続き)

ID	概要
6519072	Proxy Server 4.0.4 のスタンドアロンインストール用のインストーラには、2007 年の US DST の変更に対応する JRE バージョンが組み込まれている必要があります。対応する JRE バージョンは、Solaris、Windows、および Linux の場合は 1.4.2_13 です。HP-UX の場合は JRE バージョン 1.4.2.12 です。
6519113	『Proxy Server 4.0.4 Configuration File Reference』の第 5 章のエラーについての節が更新されて、エラー応答コード 404 および 500 への参照が削除されています。
6511549	HP-UX でのプロキシサーバーのスタンドアロンインストールで、CLI モードでインストールが失敗します。
6520577	『Proxy Server 4.0.4 管理ガイド』の仮想マルチホスティングについての節が更新されて、まずリバースマッピングを指定してからその他のマッピングを指定すべきであるという注記が追加されています。

## 4.0.3 で修正された問題

次の表に、Sun Java System Web Proxy Server 4.0.3 で修正された問題を示します。

表 14 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.3 で修正された問題

ID	概要
6191615	起動時に特定の正規表現を URL フィルタとして使用すると、Proxy Server がクラッシュします。
6213012	Windows 上の ROTATELOGS イベントは、指定された時間に起動されません。
6213726	転送時間レポートが、常に「0.00 sec/req」という値を報告します。
6215659	転送時間配布レポートが、常に「<1 sec [100.0%]」という値を示します。
6239292	アクセスログファイルにログ情報がない場合の、Extended2 形式の Log Analyzer エラー。
6242032	『Proxy Server 4.0.2 管理ガイド』の第 7 章の「システムの詳細設定」節での Parent Array の説明が間違っています。正しい説明は、「親配列とは、プロキシまたはプロキシ配列メンバーがルーティングに使用するプロキシ配列のことです」。
6264079	管理インタフェースがディレクトリサービスのデフォルト値である default を上書きします。
6275141	Proxy Server 4.0.2 でファイルキャッシュ機能は GUI に表示され、「Server Manager」>「Caching」>「Configure File Cache」ページに説明がありますが、この機能は実装されていません。
6270693	Filter 指令が要求ごとに 2 回呼び出されることがあります。

表 14 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.3 で修正された問題 (続き)

ID	概要
6285076	両方のメソッドが構成されている場合、SOCKS サーバーがユーザー認証に両方のLDAP & パスワードファイルを処理できません。
6285183	Windows で PR_MemUnmap() 呼び出しによってエラーが発生します。
6285791	JavaES 4 の SOCKS サーバーの start コマンド行の問題はこのリリースで修正されましたが、JavaES 4 インストールで作成された既存のインスタンスでは、最新の 4.0.3 パッチにアップグレードしたあとも問題が残ります。アップグレード後に作成された新しいインスタンスにはこの問題はありません。この問題は、Web Proxy Server のスタンドアロンインストールでは発生しません。
6289188	root 以外のユーザーとして Proxy Server 4.0 をインストールし、root ユーザーとして管理サーバーをインストールした場合、管理ユーザーインターフェースでキャッシュ設定を変更すると、キャッシュファイルおよびキャッシュディレクトリのアクセス権が root 以外から root に変更されます。
6292729	「Client IP Addressing Forwarding」のデフォルト設定は「ブロック」にします。
6294282	Proxy Server 4.0 管理インターフェースでパターンに「\」を含むリソースの ACL を正しく設定できません。
6294563	アクセスログ形式のデフォルト設定は Web Server とは異なります。
6295286	『Proxy Server 4.0.2 管理ガイド』の第 14 章の「逆プロキシの設定」節では、手順 5 で、「/」マッピングは管理 GUI が自動的に表示する「Map Source Prefix:」テキストボックスの内容をユーザーが変更しない場合にのみ追加されることに注意を促す必要があります。
6296870	管理インターフェースにキャッシュセクションテーブルの詳細が正しく表示されません。
6299913	Proxy 3.6 から 4.0 への移行中に ConnAddress 指令が Address に変わりません。
6300480	Proxy 3.6 から 4.0 への移行中に「キャッシュ」タブの設定が正常に移行されません。
6300615	ローカライズされたコアメッセージにメタタグがありません。
6301140	キャッシュが無効になっているプロキシのインスタンスの移行時に、移行によって無効なキャッシュエントリが作成されます。
6303619	default 以外の名前で登録されているデータベースで ACL が正しく機能しません。
6304354	「Do Not Log Client Accesses From」オプションが反映されない構成が作成されます。
6311548	Proxy Server 4.0 はアクセスログに auth-user の代わりに pauth-user を使用します。
6312044	Proxy Server 4.0 管理インターフェースでは、「Monitor Current Activity」ページの「Server Status」タブは「DNS」、「Keep-Alive」、「Cache Statistics」では更新されません。
6313910	Windows では、ヘッダー名の書き換え機能に失敗し、「Internal server error occurred」というメッセージが表示されます。

表 14 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.3 で修正された問題 (続き)

ID	概要
6313959	『Proxy Server 4.0.2 管理ガイド』の第 12 章の「ファイルキャッシュを設定するには」節の手順 1 の説明が間違っています。正しい説明は、「Server Manager から、「キャッシュ」タブをクリックします」です。
6313960	『Proxy Server 4.0.2 管理ガイド』の第 12 章の「バッチ更新を作成するには」節には、「タイミングセクション」を参照する手順 10 があります。この手順は誤っています。「Set Cache Batch Updates」ページには「タイミングセクション」がありません。
6316289	『Proxy Server 4.0.2 管理ガイド』の第 12 章の「キャッシュのディレクトリ構造の構築」節には、図 12-2 ではなく、図 12-1 を参照する例が掲載されています。
6325537	管理インタフェースで RqThrottle 値を変更できません。
6325616	定期的な (明示的な) ガベージコレクションでキャッシュがクリアされません。
6328678	管理インタフェースから、ICP timeout 値を 400 ミリ秒未満に設定できません。
6331044	『Proxy Server 4.0.2 管理ガイド』のまえがきで、「マニュアルの使用」節に、Proxy Server 4 マニュアルの場所を指定しています。 <a href="http://docs.sun.com/app/docs/prod/s1.webproxys#hic">http://docs.sun.com/app/docs/prod/s1.webproxys#hic</a> この節では、次の場所の Proxy Server 4.0.2 マニュアルを指すべきです。 <a href="http://docs.sun.com/app/docs/coll/1311.2">http://docs.sun.com/app/docs/coll/1311.2</a>
6334854	Web Proxy Server のドキュメントと sun-web-proxy-server_4_0.dtd に不一致があります。
6337102	Web Proxy Server が DNS fn = "dns-config" local-domain-levels = "8" でクラッシュします。
6338719	Proxy Server のパッチアップグレードが Linux AS 3.0 上で異なる場所にインストールされます。
6338875	Proxy 4.0.1 FTP クライアントがシンボリックリンクを正しく処理できません。
6350957	『Proxy Server 4.0.2 管理ガイド』の第 5 章の「待機ソケットのセキュリティの有効化」節では、セキュリティは逆プロキシモードでのみ有効にすることができ、順プロキシモードでは有効にできないことが述べられていません。 また、第 8 章の「ユーザーとグループの指定」節では、セキュリティは逆プロキシモードでのみ有効にすることができ、順プロキシモードでは有効にできないことが述べられていません。
6365433	Proxy Server の管理インタフェースで自動開始オプションが選択されている場合、Proxy Server インスタンスを作成できません。
6367375	親プロキシがある場合、CONNECT とのマッピングが機能しません。
6369095	Proxy Server 4.0 でのメモリーリーク。

表 14 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.3 で修正された問題 (続き)

ID	概要
6371084	Web サーバーの IP アドレスを使用している場合、連鎖プロキシ環境で SSL サイトの要求が機能しません。
6371618	「Compression Level」を「なし」に変更できません。
6371731	“connect://.*:563” がデフォルトリソースにありません。
6371793	pkginfo は SUNWproxy-l10n の \$distro を表示します。
6373101	管理サーバーが ssl-client-config に対して無効なパラメータを作成します。
6373622	cache-disable SAF が説明されていません。
6374279	WebDAV OPTIONS メソッドへの応答が RFC2518 に準拠していません。
6376065	max-uncheck 関数が予想通りに機能しません。
6376153	Proxy Server 4.0.2 は、ftp/gopher プロトコルのキャッシュを更新しません。
6381373	キャッシュがすでに温まっている場合、再起動後の実行中に Proxy Server がクラッシュします。
6381419	Cache-last-checked ヘッダーの値が無効です。
6381424	警告ヘッダーはホストを含んでいるべきです。エージェントのポート値がこのヘッダーを追加します。
6382729	Proxy Server は utf-8 エンコードパラメータを受け入れません。
6383301	Proxy Server 4.0 はチャンネルプールに問題があります。
6383456	Proxy Server 4.0.2 は Linux で高度な CPU を使用します。
6384616	Proxy Server 4.0.3 オンラインヘルプには、文字の間違いがあります。
6385902	アクセスログ設定の設定の形式はデフォルト形式と一致しません。
6387772	バグ (6325537、6303619) が修正されたため OLH の変更をローカライズする必要があります。
6387901	『Proxy Server 4.0.2 管理ガイド』の第 11 章の「プロキシサーバーの連鎖」節は明確ではありません。
6388156	キャッシュファイルのヘッダーが壊れる可能性があります。
6390237	応答にコンテンツの 2 倍の長さのヘッダーが含まれている場合、プロキシは間違ったコンテンツの長さを渡します。
6392875	regexp-map が接続のために機能しません。
6393573	DNS fn="dns-config" local-domain-levels="1" の場合、Proxy 4.0.2 がクラッシュします。

表 14 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.3 で修正された問題 (続き)

ID	概要
6394287	SOCKS プロセスが頻繁にポーリングしすぎるため、sockd プロセスが CPU の約 50% を使用しています。
6395473	「遅い」クライアントを処理している場合の Proxy Server 4.0 での高度な CPU 使用問題。
6395889	Proxy Server 4.0.2 を使用している場合に、Windows Server Update Service (WSUS) が機能しません。
6400981	socks5.conf で設定されている SOCKS5_TIMEOUT 値が無視されます。
6402698	FTP クライアントでの高度な CPU の使用。
6418214	Proxy Server 4.0 ガベージコレクション機能での問題。
6424527	cache-control ヘッダーのエントリが空のリクエストでは、処理中に Proxy Server がクラッシュします。

## 4.0.2 で修正された問題

次の表に、Sun Java System Web Proxy Server 4.0.2 で修正された問題を示します。

表 15 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.2 で修正された問題

ID	概要
5097664	ssl-tunnel-timeout パラメータが Windows で機能しません。
6225025	ftp-listing-width パラメータが正しく機能しません。
6251805	アーカイブのログを変更するとクラッシュします。
6262277	ICP のタイムアウトの最小値を 400 から 50 に変更します。
6292690	Proxy Server 4 で、IE 6.0 を使用して管理インタフェースにアクセスしているときに、「Manage Sections」>「Partition」を使用して元のパーティションを選択できません。
6292786	Proxy Server で、転送時間やその他の時間がアクセスログに書き込まれません。
6308714	umask が 022 に設定されていない場合に、Proxy Server の起動に失敗します。
6310909	Proxy Server 4.0.1 ポイント製品で、製品名のバージョン文字列がフランス語ロケールで 2005Q3 から 2005T3 に誤って訳されています。
6310910	Proxy Server 4.0.1 ポイント製品で、フランス語ロケールのインストーラメッセージ中のアポストロフィーが多数欠落しています。
6310944	Proxy Server 4.0.1 ポイント製品で、CLI インストーラがライセンスを表示しません。

表 15 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.2 で修正された問題 (続き)

6310961	Proxy Server 4.0.1 ポイント製品で、スペイン語ロケールのライセンスインストール画面の「Yes」がローカライズされていません。
6312723	Proxy Server 4.0 を使用しているときに、IP アドレスで SSL サイトにアクセスできません。
6313981	Proxy Server 4 で、管理インターフェースを使用して新しい逆マッピングを作成したあとで「Rewrite Content Location」および「Rewrite Headername」の値を変更できません。
6315817	複数の同時 CONNECT (SSL トンネリング) 要求によって、スレッドが不足します。
6330348	負荷実行時に Solaris 10 のプロキシプロセスによってメモリーが大量に使用されます。
6333995	CONNECT の負荷テストの実行時にメモリーリークが発生します。
6335919	FTP サーバーが閉じていると、Proxy Server の FTP クライアントの接続が閉じません。
6335922	Proxy Server の FTP クライアントが USER 要求を FTP サーバーに送信しません。
6336550	Proxy Server 4.0 インストールを含むディレクトリに Proxy Server 4.0.1 をインストールしようとするエラーが発生します。

## 4.0.1 で修正された問題

次の表に、Sun Java System Web Proxy Server 4.0.1 で修正された問題を示します。

表 16 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.1 で修正された問題

ID	概要
2126143	同じ正規表現がアクセス制御とルーティングでは機能しますが、URL フィルタでは機能しません。
2126380	プロキシサーバーの ICP プロセスのメモリーリーク。
6231283	Linux Red Hat Advanced Server 3.0 上の管理サーバーが起動に失敗します。
6237346	flexanlg ユーティリティが、Extended2 ログファイル形式でのログ分析レポートの生成時に、コアダンプを出力します。
6240767	管理サーバーおよびプロキシサーバーインスタンスの追加/編集待機ソケットが、使用されているポートを確認しません。
6242627	ローカライズされたコアメッセージが表示されません。
6243369	SOCKS に関連するページでマルチバイト文字のエントリは避ける必要があります。

表 16 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.1 で修正された問題 (続き)

6244103	Linux Advanced Server 3.0 韓国語ロケールでプロキシサーバーインスタンスの「Set Connectivity Mode」ページにアクセスすると、内部サーバーエラーが表示されます。
6245408	管理者ユーザーとプロキシインスタンスユーザーが異なる場合に、新しく追加したパーティションにアクセスすると、内部エラーが表示されます。
6249166	プロキシサーバーへのアクセス時に、URL のホスト名が localhost に置換されると、「Cluster」タブの「Control Cluster」、「Modify Server」、「Remove Server」ページの表示が一致しません。
6253014	Linux Red Hat Advanced Server 3.0 上の obj.conf ファイルに、9つを超える NameTrans ディレクティブが存在すると、init-proxy SAF でクラッシュが発生します。
6254508	セグメンテーションのエラーによって、バッチの更新コマンドが終了します。
6255214	マルチバイト文字から構成されるコンテンツ URL 書き換えページのエントリを編集または削除できません。
6255216	socks5.conf 内の特定の LDAP エントリによって、socksd クラッシュが発生します。
6259314	ローカライズされた一部のオンラインヘルプページが英語のオンラインヘルプページと同期化されていません。
6261440	インストールディレクトリに、重複した英語オンラインヘルプが存在します。
6263694	「Add and Replace Compromised Key List」ページおよび「Add and Replace Certificate Revocation List」ページでオンラインヘルプが利用できません。
6263721	Server Manager の「Add/Replace Cert」ページについて誤ったヘルプページが表示されます。
6274186	サーバーインスタンスを削除できません。
6276398	基本ワークスペースからローカライズされたオンラインヘルプを削除します。
6285078	SOCKS 要求の認証の失敗のエントリがログファイルに記録されません。
6285779	serverID にスペースが含まれる場合に、プロキシサーバーインスタンスが起動できません。
6285788	認証を使用している場合に、SOCKS サーバーがクラッシュします。
6289242	Proxy Server 4 の HTTP Smuggling (スマグリング)。
6293449	Proxy Server 4 が CONNECT メソッドでただちに接続を閉じません。
6295622	関数 ConnAddress は、Proxy Server 4.0 で実現されていません(説明もありません)。
6296169	他のロケールでインストールされた Proxy Server 4 のヘッダー Cache-last-checked が壊れています。
6296225	DNS キャッシュが有効にされている場合に、Proxy Server インスタンスが断続的にクラッシュすることがあります。

表 16 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.1 で修正された問題 (続き)

6301786	Solaris 9x86、Linux AS 3.0 で、ローカライズされたコアメッセージが表示されません。
6311463	プロキシプロセスで、時間と共にオープンファイル記述子の数が増加し続け、プロキシのファイル記述子が不足し、接続がドロップします。

## 既知の問題点

この節では、Sun Java System Web Proxy Server 4.0.13 がリリースされた時点での非常に重要な既知の問題および制限を一覧表示します。問題をカテゴリごとに記述します。

- 45 ページの「管理」
- 46 ページの「キャッシュ」
- 47 ページの「インストール」
- 48 ページの「国際化」
- 49 ページの「各国語化」
- 49 ページの「SOCKS」

## 管理

次の表は、管理ユーザーインタフェースに関連した既知の問題を一覧したものです。

表 17 管理における既知の問題

ID	概要
6653507	「Monitor Current Activity Statistics/Profiling」が ON に設定されている場合、ユーザーのインタフェースからは OFF にできません。
6212701	サーバーインスタンスの起動に失敗すると、相反するエラーメッセージが表示されます。  管理インタフェースが間違った情報を構成ファイルに書き込む可能性は非常に低いため、この相反するエラーメッセージが表示されることはめったにありません。ユーザーが手動で間違った情報を構成ファイルに書き込んだ場合にのみ可能性があります。
6231297	SOCKS 設定に変更を加えて、SOCKS サーバーの代わりに Proxy Server を再起動した場合は、「Restart Required」リンクが消えます。
6484502	プロキシサーバーの管理インタフェースがローカライズされていません。

表 17 管理における既知の問題 (続き)

6509535	<p>米国では、3月の第2日曜日にサマータイム (DST) が始まり、11月の第1日曜日に終了します。これは、オペレーティングシステムと JRE の日付と時刻の規則に影響を与えます。</p> <p>プロキシサーバーのスタンドアロンバージョンでは、2007年の DST の変更に対応する JRE バージョンがインストーラにバンドルされています。ただし、回避策の手順 1 の説明に従って適切なオペレーティングシステムのパッチをインストールすることにより、オペレーティングシステムの日付と時刻の規則への影響に対処する必要があります。</p> <p>JavaES 5 のプロキシサーバーのインストールでは、オペレーティングシステムのパッチとともに DST 互換バージョンの JRE もインストールする必要があります。回避策の手順 1 および 2 に従ってください。</p> <p>回避策</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>適切なオペレーティングシステムのパッチをダウンロードして使用します。Solaris パッチは <a href="http://sunsolve.sun.com/search/document.do?assetkey=1-26-102775-1">http://sunsolve.sun.com/search/document.do?assetkey=1-26-102775-1</a> からダウンロードできます。その他のプラットフォームの場合は、同様の DST 互換パッチをオペレーティングシステムのベンダーの Web サイトからダウンロードしてください。</li> <li>Solaris、Windows、および Linux プラットフォームの場合は、JRE 1.4.2_13 を使用してプロキシサーバーを実行してください。HP-UX プラットフォームの場合は、JRE 1.4.2.12 を使用してプロキシサーバーを実行してください。</li> </ol>
6558027	<p>Windows で複数バイト文字のサーバー識別子を使用すると、サーバー側で <code>createInstance.exe</code> のエラーが発生します。</p>
6867774	<p>カスタム JDK 設定を使用するプロキシのインストールを、より新しい JDK バージョンを要求するサービスパックのバージョンにアップグレードすると、管理サーバーが起動に失敗します。アップグレード後、バンドルされた JDK または要求されたバージョンのカスタム JDK のどちらかを指すように JDK 設定を手動で修正する必要があります。</p>
6909558	<p>LDAP <code>uid</code> でのバックスラッシュの使用は、特殊文字をエスケープする目的に限定すべきです。Proxy サーバーによって使用される <code>ldap sdk</code> は、バックスラッシュを削除してから <code>uid</code> をディレクトリサーバーに送信します。これにより、バックスラッシュを取り除いた <code>uid</code> に対する一致がディレクトリサーバーに見つからないために、成功するはずの認証が失敗する、またはバックスラッシュを取り除いた <code>uid</code> に対する一致がディレクトリサーバーに見つかるために、失敗するはずの認証が成功する、という状況が生じる可能性があります。</p>
6888170	<p>指定されたターゲットディレクトリ名の末尾にスラッシュが付いている場合、RHEL4 でアップグレードが失敗します。</p>

## キャッシュ

次の表は、キャッシュに関連した既知の問題を一覧したものです。

表 18 キャッシュにおける既知の問題

ID	概要
6654514	要求タイプ 504 に対して、Proxy-Agent ヘッダーに元のヘッダーが表示されません。
6229823	<p>新しいパーティションを追加すると、パーティションのサイズに関係なく、デフォルトのセクション s0.0 も作成されます。エラーファイルに警告メッセージが記録されます。</p> <p>回避策</p> <p>cbuild ユーティリティーを使用して、新しいパーティションを追加するか、または新しいキャッシュパーティション下の s0.0 フォルダを削除し、プロキシサーバーを再起動します。</p> <p>エラーメッセージは無視して構いません。</p>
6619620	<p>Doc RFE: Proxy Server をネットワークキャッシュとアクセラレータ (NCA) と一緒に使用すべきではありません。</p> <p>Proxy Server 4.0.8 を NCA と一緒に使用すると、ユーザー ID とパスワードの入力をブラウザから繰り返し求められます。これは、NCA が Proxy-authorization のような Proxy 固有のヘッダーをサポートしないために発生します。</p> <p>回避策</p> <p>Proxy の待機ソケット設定で NCA を選択しないでください。</p>

## インストール

次の表は、インストールに関連した既知の問題を一覧したものです。

表 19 インストールにおける既知の問題

ID	概要
6205683	Windows 上のコンソールインストールに失敗します。
6255325	root ユーザーでないユーザーが Proxy Server をインストールし、/var/opt/sun/install ディレクトリが存在しない場合、インストーラは例外をスローし、Linux でのインストールは失敗します。
6353576	サイレントアップグレードインストールが機能しません。
6587776	Windows XP 上で Java ES 5 から Proxy Server をインストールした場合、システムエラー 1067 が表示されます。
6756659	setup コマンドの --javahome オプションで JDK 1.6 の場所を指定した場合のみ、GUI インストーラを使用して OpenSolaris 上に Proxy Server 4.0.9 をインストールできます。

表19 インストールにおける既知の問題 (続き)

6607551	<p>Windows上で、パッチをアンインストールしても Proxy Server のバージョンは以前のバージョン番号に変更されません。</p> <p>Uninstaller スクリプトを使用してパッチを取り消しても RenameService.exe ユーティリティーに制限があるため、サービス記述名を以前の Proxy Server のバージョンに変更できません。このため、パッチをアンインストールしたあとでも、サービス記述には以前のバージョン番号ではなく最新の Proxy バージョンが表示されます。</p>
---------	---

## 国際化

次の表は、国際化に関連した既知の問題を一覧したものです。

表20 国際化における既知の問題

ID	概要
6233080	<p>ルーティングが別のプロキシサーバーを使って設定されている場合、「Disable Proxying」オプションはマルチバイトデータ (URL エンコード) の URL では機能しません。</p>
6233090	<p>マルチバイトデータ (URL エンコード) の URL をマップできません。</p>
6253844	<p>プロキシサーバーのオンラインヘルプは zh-cn (簡体字中国語) をサポートしていません。</p>
6297168	<p>異なるシステムエンコーディングでサーバーを起動すると、そのシステムエンコーディングのシステムによってエラーが発生し、エラーログに記録されます。管理サーバーから表示すると、エラーログには正しく表示されないシステムエンコーディングの文字が含まれる場合があります。</p> <p>回避策</p> <p>エラーログが管理インタフェースで正しく表示できるように、ブラウザのエンコーディングを OS ロケールに合うように変更します。しかし、この手順は他のページに移動して「View Error Log」に戻るたびに必要となります。</p>
6300080	<p>プロキシサーバーのコンテンツ書き換え関数が矛盾しています。</p>

表20 国際化における既知の問題 (続き)

6526476 および 6526488	<p>HP-UX でのプロキシサーバーのスタンドアロンインストールでは、GUI モードでインストールを行うと日本語の文字が正しく表示されません (ID 番号 6526476)。そのままインストールを続行すると、インスタンスの作成中にエラーが発生します (ID 番号 6526488)。</p> <p>回避策</p> <p>次のいずれかの回避策を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ HP-UX の日本語ロケールでは CLI モードのインストールを使用します。</li> <li>■ 文字が破壊されて表示されていても、インストールを続行します。インストーラがインスタンスの作成に失敗した場合は、管理インターフェイスにログインしてインスタンスを作成します。</li> </ul>
6550995	<p>次のエラーメッセージは、どのロケールに対してもローカライズされていません。</p> <p>HTTP7774: received extraneous data following response</p>

## 各国語化

次の表は、ローカリゼーションに関連した既知の問題を一覧したものです。

表21 ローカリゼーションにおける既知の問題

ID	概要
6779070	Proxy Server OLH の利用規約のリンクが壊れています。
6253844	Proxy Server OLH の設定言語オプションは、zh-cn (簡体字中国語) をサポートしていません。
6828246	RHEL 5.2 の Proxy Server インストーラで、韓国語の文字が表示されません。

## SOCKS

次の表は、SOCKS に関連した既知の問題を一覧したものです。

表22 SOCKS における既知の問題

ID	概要
6245453	更新抑制機能は GUI に表示され、「Server Manager」>「SOCKS」>「Configure SOCKS v5」ページに説明がありますが、この機能は実装されていません。
6263389	Windows で同じポートを使用して SOCKS の 2 つのインスタンスを起動すると、エラーがレポートされません。

表22 SOCKSにおける既知の問題 (続き)

6285791	JavaES 4 の SOCKS サーバーの <code>start</code> コマンド行の問題はこのリリースで修正されましたが、JavaES 4 インストールで作成された既存のインスタンスでは、最新の 4.0.3 パッチにアップグレードしたあとも問題が残ります。アップグレード後に作成された新しいインスタンスにはこの問題はありません。この問題は、Web Proxy Server のスタンドアロンインストールでは発生しません。
---------	--

## 問題の報告とフィードバックの方法

Sun Java System Web Proxy Server 4.0.13 の使用にあたって問題が発生した場合は、以下のいずれかの方法で Sun のカスタマサポートにお問い合わせください。

- Sun Software Support Services  
<http://jp.sun.com/service/support/software/>
- 保守契約先に電話連絡してください。

最善の問題解決のため、サポートに連絡する際には次の情報をご用意ください。

- 問題が発生した状況および操作への影響などの、問題の具体的説明
- マシン機種、OS バージョン、および製品のバージョン (問題に関係するパッチおよびその他のソフトウェアを含む)
- 問題を再現するための具体的な手順の説明
- エラーログまたはコアダンプ

## このマニュアルに関するコメント

弊社では、マニュアルの改善に努めており、お客様からのコメントおよびご忠告をお受けしております。コメントを共有するには、<http://docs.sun.com> に移動して、「FEEDBACK」をクリックします。

## その他の情報

Sun Java System の有用な情報は、以下の場所から入手できます。

- Sun Java System Web Proxy Server 4.0.13 のマニュアル  
<http://docs.sun.com/coll/1311.12>
- Sun ソフトウェア製品およびサービス  
<http://jp.sun.com/products/software/>
- Sun 開発者向け情報  
<http://developers.sun.com/>

- Sun 開発者サポートサービス  
<http://developers.sun.com/prodtech/support/>
- Software Support Services  
<http://jp.sun.com/service/support/software/>
- Sun サポートおよびトレーニングサービス  
サポート:<http://jp.sun.com/support/>  
トレーニング:<http://suned.sun.co.jp/JPN/>
- Sun コンサルティングおよびプロフェッショナルサービス  
<http://www.sun.com/service/sunjavasystem/sjsservicessuite.html>

## Sun 製品資料の検索

Sun 製品資料の検索には、docs.sun.com<sup>SM</sup> Web サイトだけでなく検索エンジンも使用することができます。その場合は検索フィールドに次の構文を入力します。

```
<search-term> site:docs.sun.com
```

たとえば、「Web Proxy Server」を検索するには、次のように入力します。

```
Web Proxy Server site:docs.sun.com
```

検索に java.sun.com、www.sun.com や developers.sun.com などほかの Sun Web サイトも含めるには、「docs.sun.com」の代わりに「sun.com」を検索フィールドに入力します。

